

## 地域のこぼれ話(1)「子宝の木と龍の口」

毎月1日に下富谷地区のシニアクラブの皆さんが、熊野神社と白山神社の清掃を行います。瑞穂園の職員も3月・6月・12月に参加させていただいています。早朝の清掃活動は清々しい気分にもなります。

「昔は地域の子供たちが毎週日曜日には神社の清掃をしていたものだが・・・。」

「子供たちの姿が見えなくなってしまった。」

3世代同居が残るこの地域にも少子高齢化の波が・・・

シニアクラブの皆さんは、ボランティア活動の一環で「見守り隊」として、小学生の下校の際の安全見守りもしています。

白山神社は小さな神社ですが、社の前に不思議な木があります。

大タブノキが朽ち果てたようにみえますが、実は生きていて葉も繁っています。その中から別の木がそびえ共存しています。まるで、母に抱かれた子供のようにも見えます。地域の方は安産や子宝の木として崇めているそうです。

そして、大タブノキの地に這う先端が龍の口のように見えます。周りには龍のひげが植えられ生き生きとした生命力を感じます。子を優しく抱き、龍のような強さで子を守る。母の優しさと強さの象徴のようです。

いつの時代も、自然に対する畏怖と祈りは忘れてはならないものだと教えてくれます。地域の皆様が神社や自然を崇め、清掃活動をする姿は次世代の子供たちにも何かを伝えることができるのではないのでしょうか。



子宝の木



龍の口



白山神社「子宝の木」の前で



熊野神社の清掃



力仕事は職員がお手伝い